



2026年3月期 第1四半期連結決算 補足説明資料

証券コード 4667

2025年8月8日

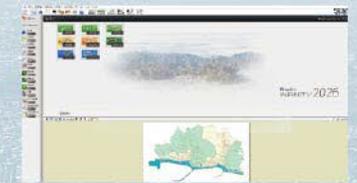
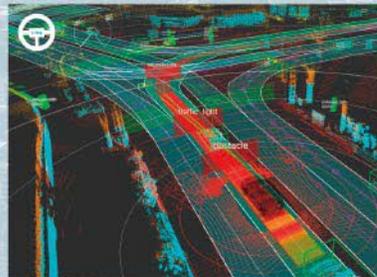
アイサンテクノロジー株式会社



未来の社会インフラを創造する

To Advance Society

街、都市、国土。人々が生活するうえで欠かすことのできない社会インフラ。それらの整備は「測る」ことから始まります。
アイサンテクノロジーは、時代の最先端システムを融合したソリューションテクノロジーのアップデートをもって「測る」を支え、未来の社会インフラの創造に貢献します。



Aisan's Mission

高精度地理空間情報プラットフォーム





2025 AISAN TECHNOLOGY

Ⅰ 2026年3月期 第1四半期
決算概況

Ⅰ 2026年3月期 第1四半期
トピックス

Ⅰ ご案内



公共セグメント事業



測量CADシステム

土地家屋調査士や測量士、建設コンサルタント向けに、土地や建物等の正確なデータ取得・解析・図面作成を支援するソフトウェアの開発販売を行っています。相続を含む不動産取引、建築設計、インフラ整備、災害発生時の状況把握や復旧作業など、さまざまな分野で活用されており、**公共事業にも不可欠なツール**です。



測量計測機器販売および支援

測量の現場で土地や建物の位置・高さ・距離などを正確に測定するために必要な**測量機器の仕入販売**を行い、**業務効率化や正確な計測作業を支援**しています。



サポートサービス

当社製品をご利用のお客様に対し、不具合対応や最新バージョンへのアップデート、各種お問い合わせ対応などを行う**有料サポートサービス**を提供しています。

自社ソフトウェアだけでなく測量機器も扱うことに加えて導入後のサポート体制を充実
お客様の業務をワンストップでサポート可能

モビリティ・DXセグメント事業



自動運転ソリューション

全国の自治体やバス会社、自動車メーカーなど、幅広いお客様を対象に、**自動運転の導入**を進めています。具体的には、自動運転計画のコンサルティング、ニーズにあわせた車両の自動運転化、自動運転に必要な地図データの生成・販売、MMSの運用・販売など、さまざまなソリューションの提供を行っています。長野県塩尻市でのレベル4(運転席にドライバーを設置しない)での自動運転の実現など、**豊富な経験と技術力で自動運転の社会実装を推進**しています。



都市空間DXソリューション

自治体が保有、分断管理している都市インフラデータ(ガス管、水道管など)を、**三次元位置データで可視化・統合**し、埋設物の正確な位置や状況把握による**安心安全な都市計画**を目指しています。

今後は交通DX分野やインフラDX分野、まちづくりでデータ統合や活用を支援するソリューションを展開し、**国や自治体のDX推進に貢献**していきます。

自動運転に関わるすべての業務を
ワンストップで提供
これまで培った技術力で未来の社会インフラを創造

	公共セグメント 【主要な市場】 測量・不動産市場	モビリティ・DXセグメント 【主要な市場】 自動車関連、MaaS関連市場
収益区分	製品・サービス	
自社ソフトウェア販売及び 関連サービス	測量土木関連ソフトウェア(「Wingneo INFINITY」「LasPort」等) 三次元点群処理ソフトウェア(「WingEarth」「ANIST」等) 及び関連保守サービス 等	
計測機器販売及び 関連サービス	測量計測機器販売 及び関連保守サービス 等	MMS計測機器及び関連製品・サービス 自動運転車両に係るハードウェア販売 等
各種請負業務及び 関連サービス	土地・河川・海洋に関する各種測量業務 三次元計測・解析業務の請負 等	三次元計測・解析業務 高精度三次元地図データベース構築業務 自動運転車両・システム構築 自動運転の実証実験請負 等
その他	その他関連ハードウェア・サービス	

※ 「その他」のセグメント区分は報告セグメントに含まれず、不動産賃貸業を営んでおります。

2026年3月期 第1四半期 業績ハイライト

(単位:千円)

	2026年3月期 第1四半期 (2025.4.1~2025.6.30)	2025年3月期 第1四半期 (2024.4.1~2024.6.30)	前年同期比 (増減額)	前年同期比 (増減比率)
売上高	1,112,786	1,133,239	▲20,452	▲1.8%
営業損失	▲7,758	6,376	▲14,135	—
親会社に帰属する 四半期純利益	268	6,648	▲6,380	▲96.0%

2026年3月期 第1四半期 業績ハイライト

- 昨年度にリリースした新製品「ANIST」の販売が好調に推移し、公共セグメントにおける売上高、セグメント利益に貢献。
- 高精度三次元地図、自動運転実証実験等の各請負案件は、受注件数は前年同期を下回ったものの、1件あたりの受注規模拡大により、全体の受注金額は前年同期を上回る水準で推移。
- 以上により、前年同期と比較し、当第1四半期連結累計期間では計画していた営業損失計上の結果となるものの、当期純利益では黒字となり、計画以上の実績で着地するとともに期末に向けた受注は順調に推移し、期末の計画を達成する見込み。

セグメント別決算概況

2025 AISAN TECHNOLOGY

① 公共セグメント

(単位:千円)

	2026年3月期 第1四半期 (2025.4.1~2025.6.30)	2025年3月期 第1四半期 (2024.4.1~2024.6.30)	前年同期比 (増減額)	前年同期比 (増減比率)
売上高	802,369	678,525	123,844	18.3%
セグメント利益	220,901	165,141	55,760	33.8%

② モビリティ・DXセグメント

(単位:千円)

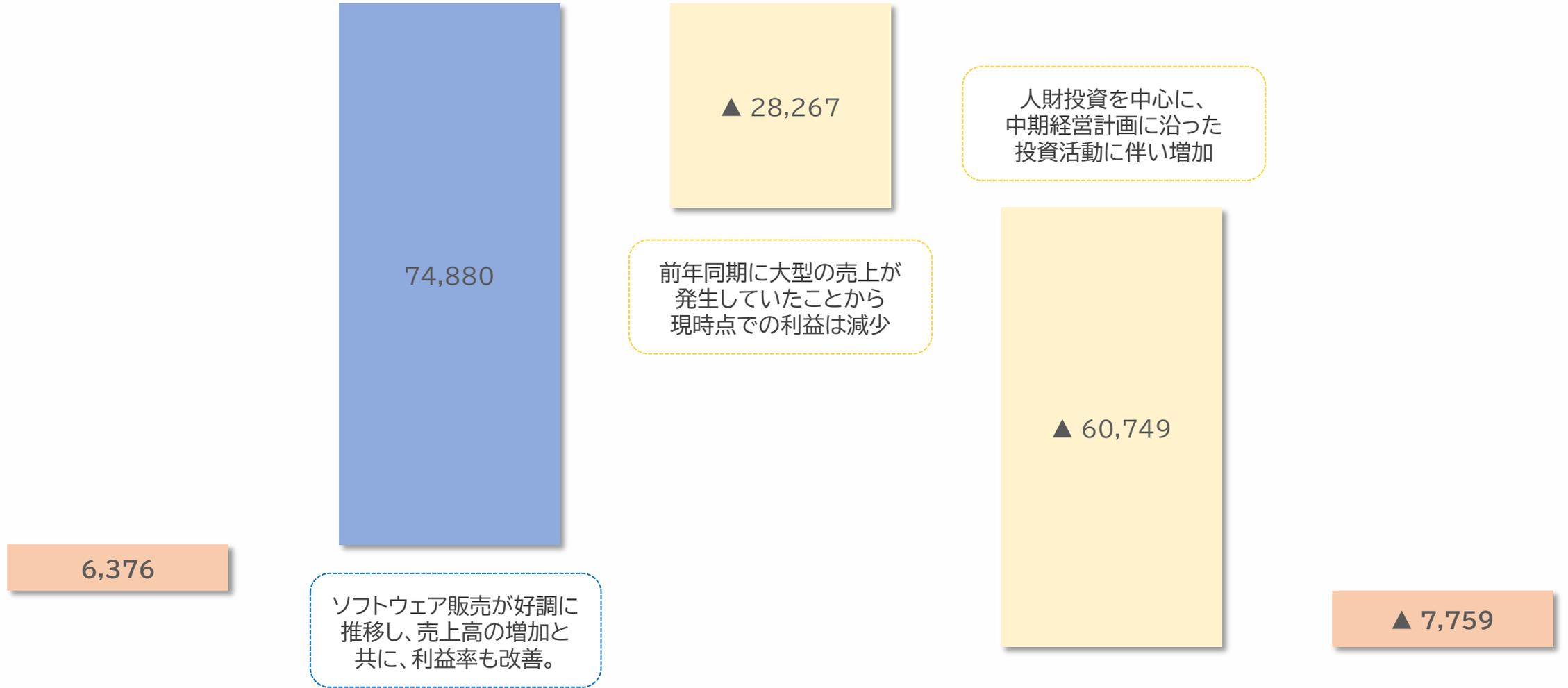
	2026年3月期 第1四半期 (2025.4.1~2025.6.30)	2025年3月期 第1四半期 (2024.4.1~2024.6.30)	前年同期比 (増減額)	前年同期比 (増減比率)
売上高	307,970	451,923	▲143,952	▲31.9%
セグメント損失	▲144,609	▲70,096	▲74,512	—

営業利益増減分析

2025 AISAN TECHNOLOGY



(単位:千円)



前年同期 営業利益

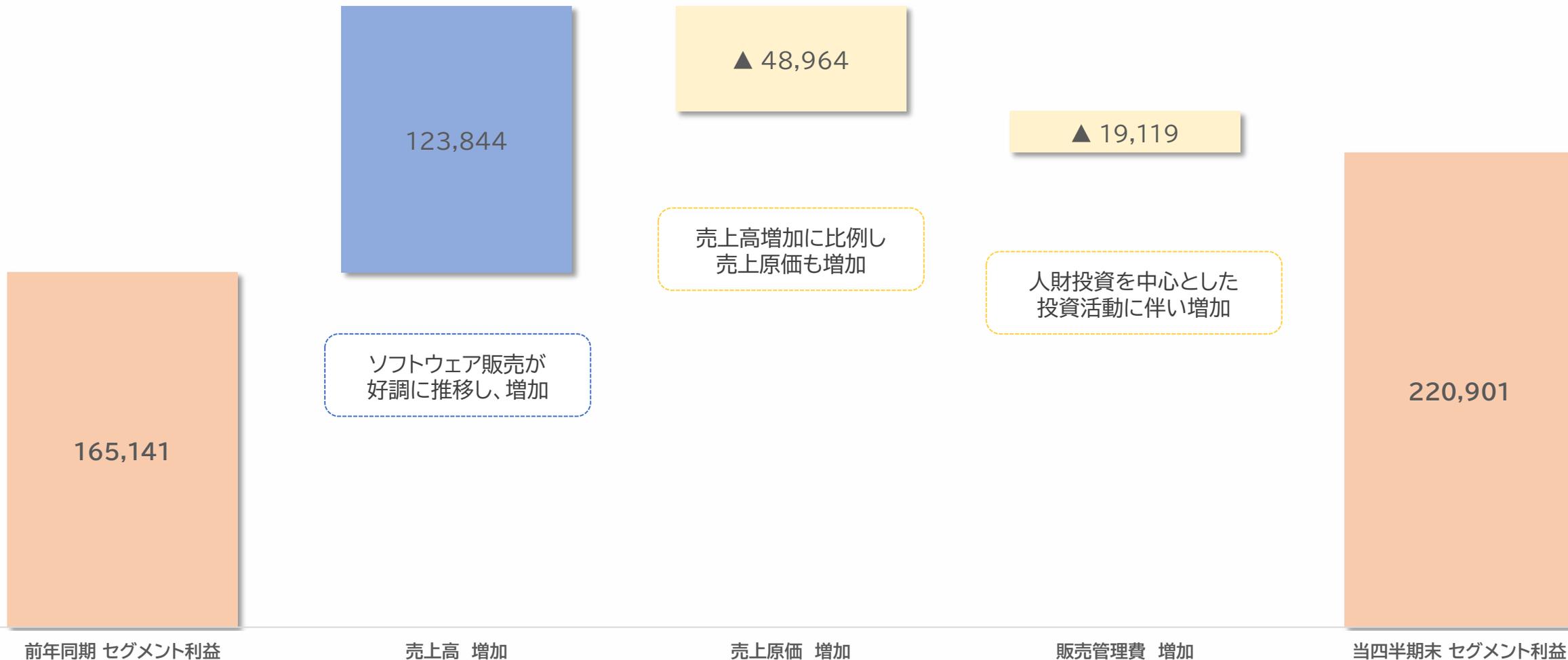
公共SG 売上総利益 増加

B2B・DX SG 売上総利益 減少

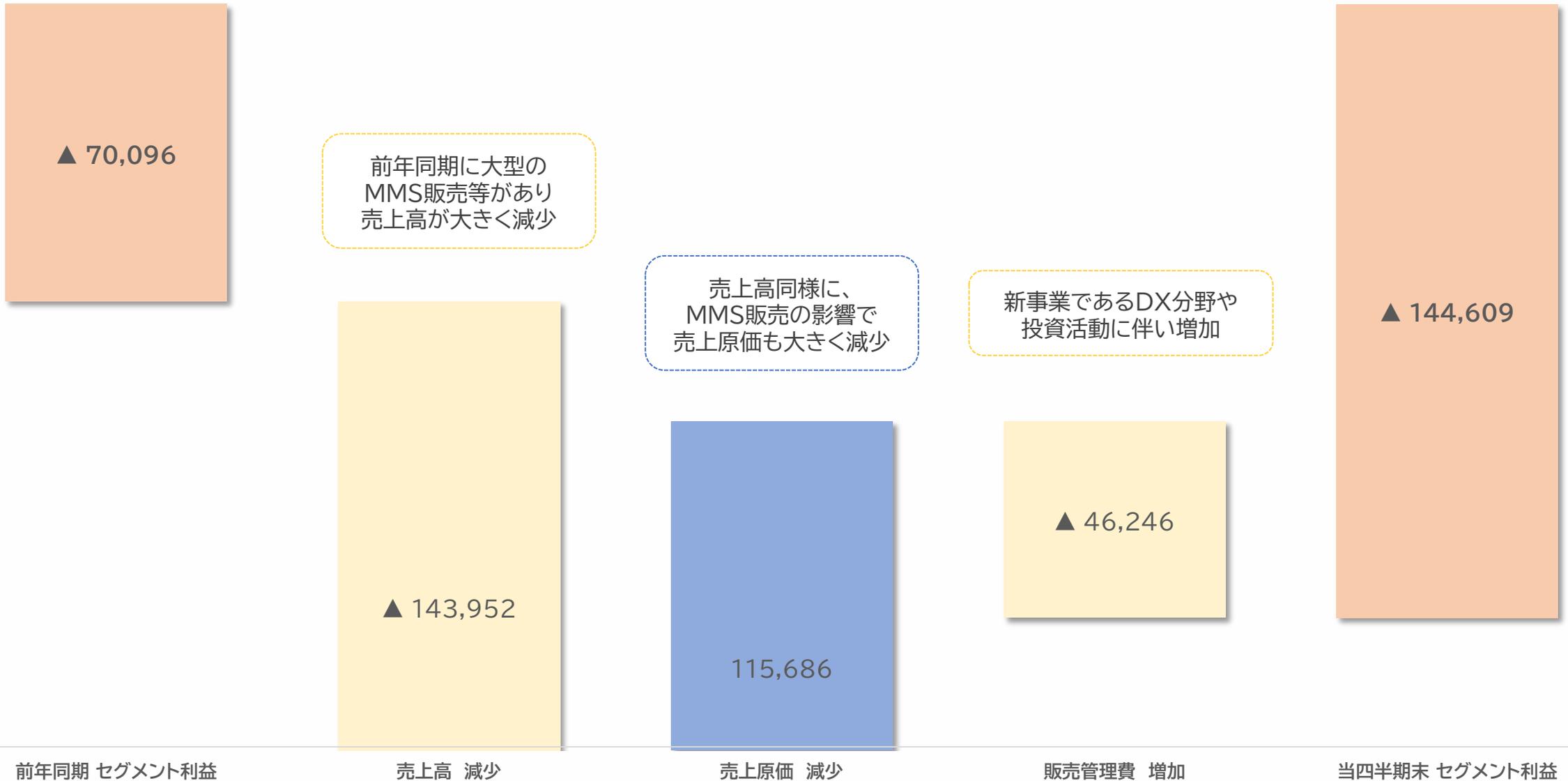
本社 販売管理費等 増加

当四半期末 営業利益

公共セグメント セグメント利益増減分析



モビリティ・DXセグメント セグメント利益増減分析



① 売上高

通期
目標

72億円

- 基盤となる公共セグメントでは、持続的に安定した成長を目指す。
- モビリティ・DXセグメントは国や市場の動向と連動し、飛躍につながる重要期間として事業展開を行う。
- 以上より、前年比15.7%増となる売上高72億円を計画。

② 営業利益

6億円

- 2027年3月期に、当社グループ過去最高となる営業利益8億円を目指す。
- 当事業年度においては、上記計画を達成すべく、様々な先行投資を行う。
- 以上より、前年比33.5%増となる営業利益6億円を計画。

③ 売上高営業利益率

8.3%

- 左記①・②より、昨年度より売上高、営業利益ともに上回る計画から、売上高営業利益率については前年比約1.1ポイント増となる8.3%を計画。
- 2027年3月期には10%を達成するため、前事業年度より引き続き、その基盤となる製品・人財・事業に向けた投資を実施。

1Q
進捗

11.1億円

- 公共セグメントにおいては主力製品のアップデートや新製品の好調により売上増。
- モビリティ・DXセグメントでは自動運転や三次元地図、インフラDXの推進に積極的に取り組む一方、前年同期に大型売上が発生していたため、売上高は減少。
- 前年同期(11.3億円)と同水準で着地。

▲7百万円

- 当第1四半期連結累計期間では営業損失を計上することになるものの、当社グループとしては計画より損失が抑えられた進捗。
- モビリティ・DXセグメントを中心に、収益計上が年度末に集中する傾向は前年より強まっており、当連結会計年度も、第4四半期に大きく伸長する見込。

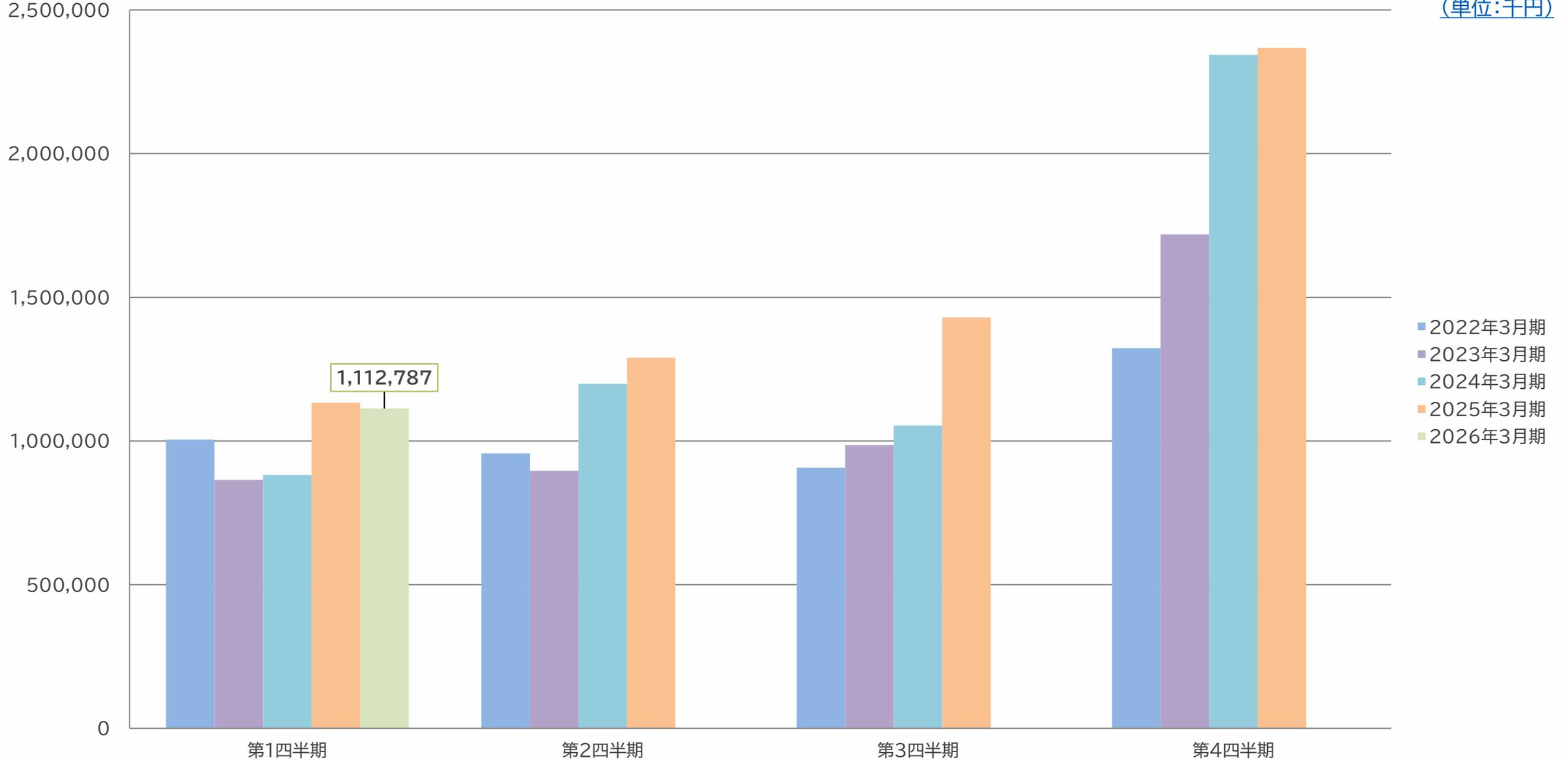
▲0.7%

- 前年同期(0.5%)と比較し減少。
- 前連結会計年度に引き続き、中期経営計画に沿った人財投資計画や新製品への研究開発を進めた結果、販管費が増加したことも要因。
- 請負契約の受注も順調に進んでいることから、通期目標を達成する見込み。

四半期会計期間 売上高推移(5期比較)

2025 AISAN TECHNOLOGY

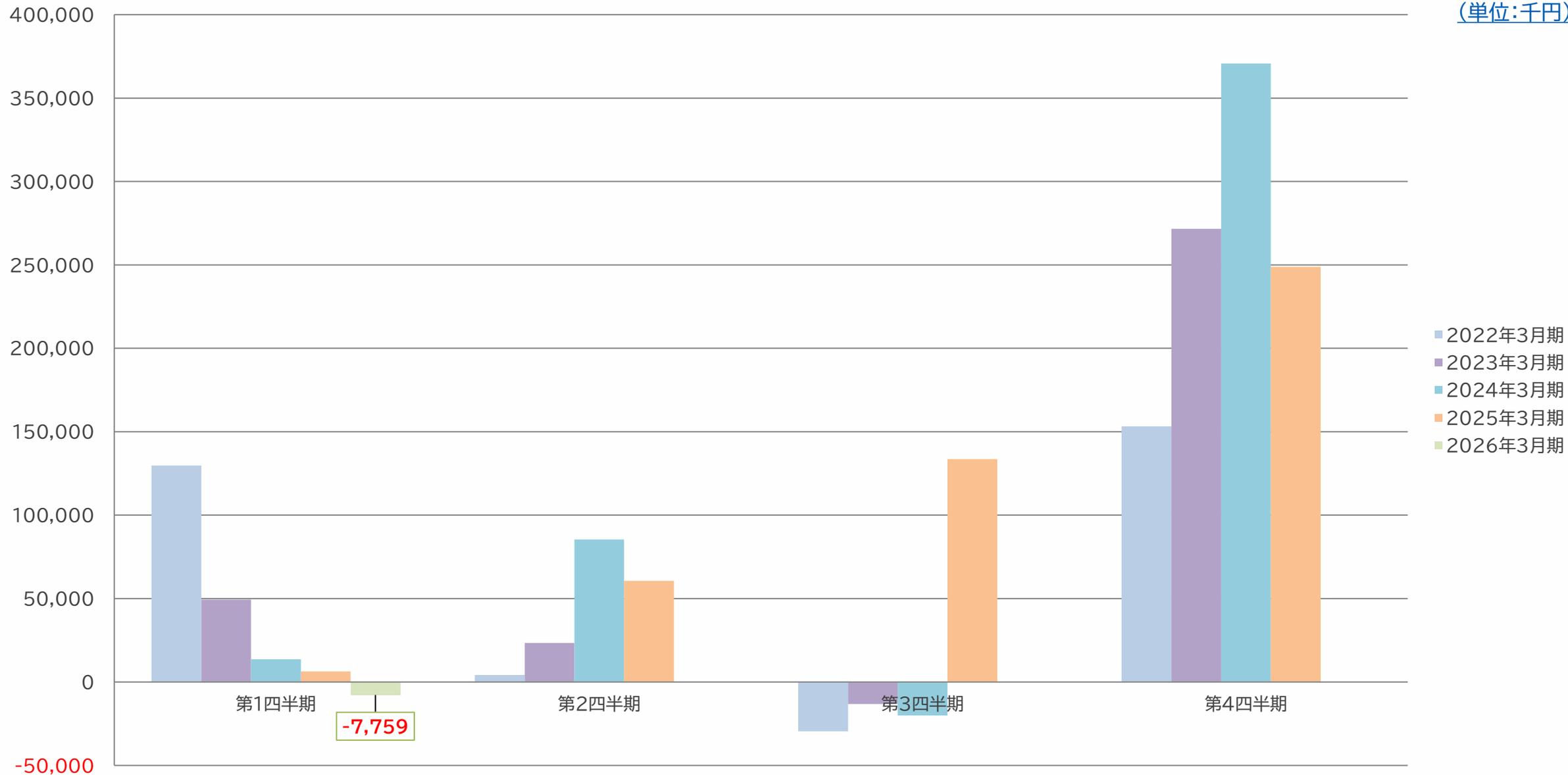
(単位:千円)



四半期会計期間 営業利益推移(5期比較)

2025 AISAN TECHNOLOGY

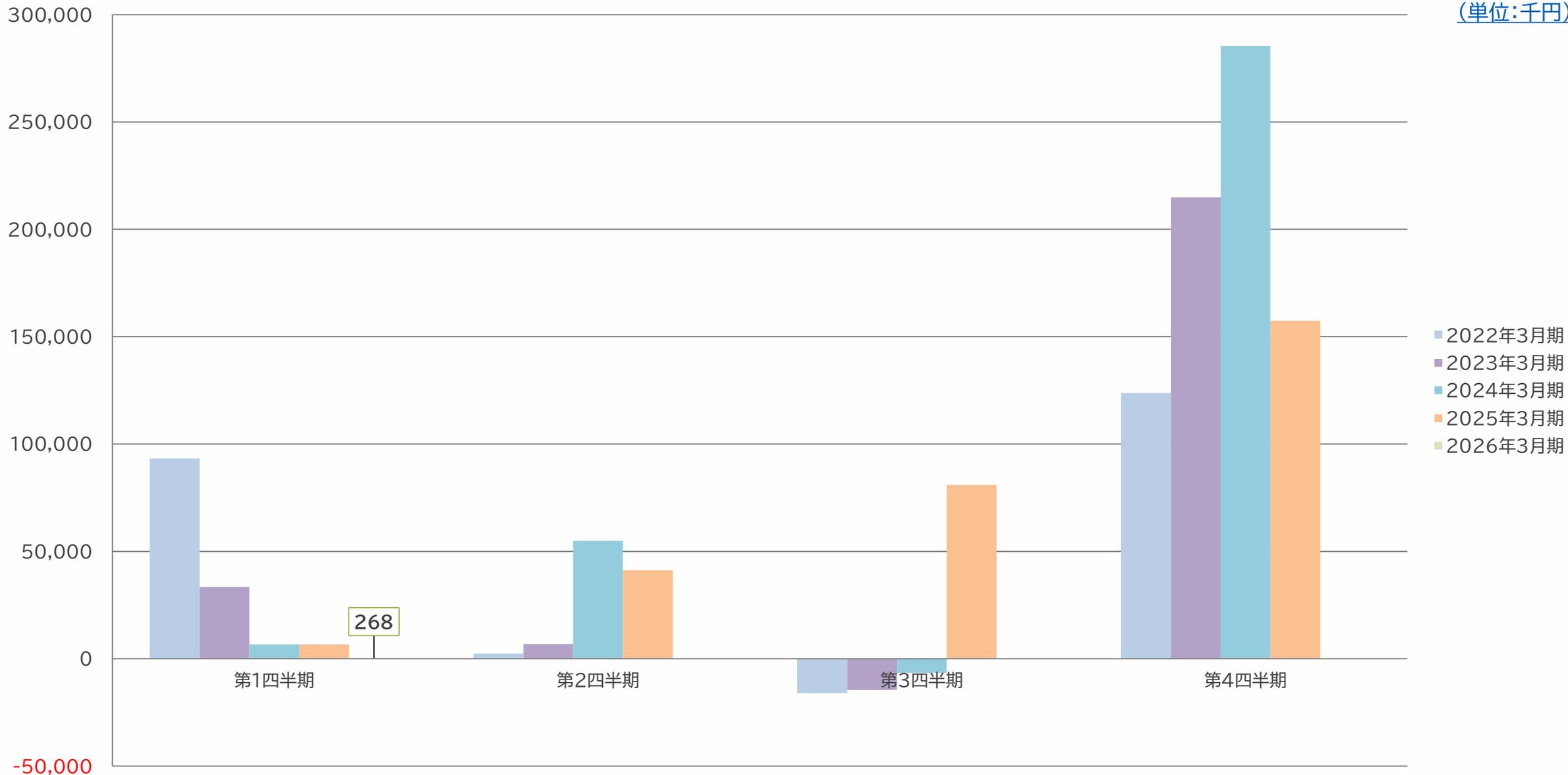
(単位:千円)



四半期会計期間 親会社株主に帰属する当期純利益推移(5期比較)

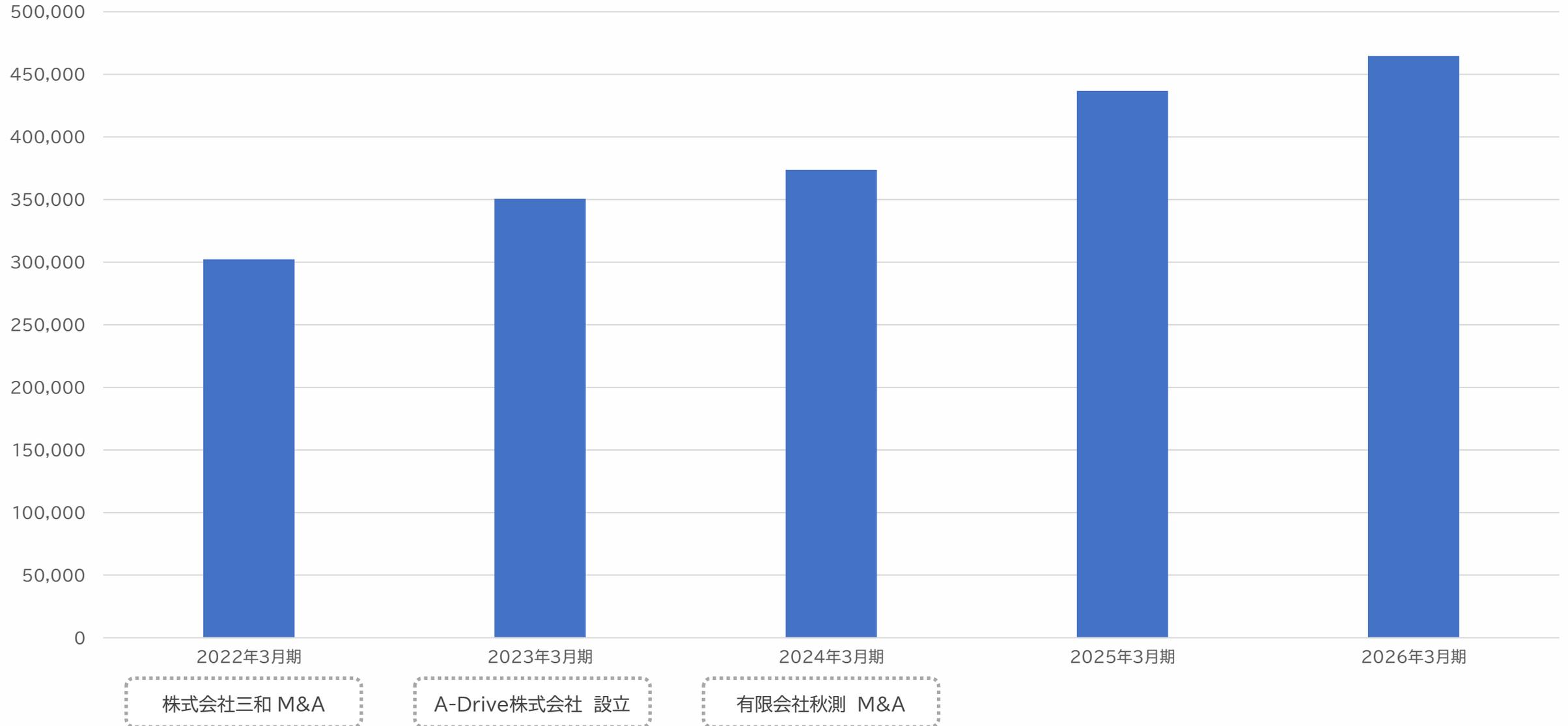
2025 AISAN TECHNOLOGY

(単位:千円)



人件費総額 事業年度別推移(第1四半期)

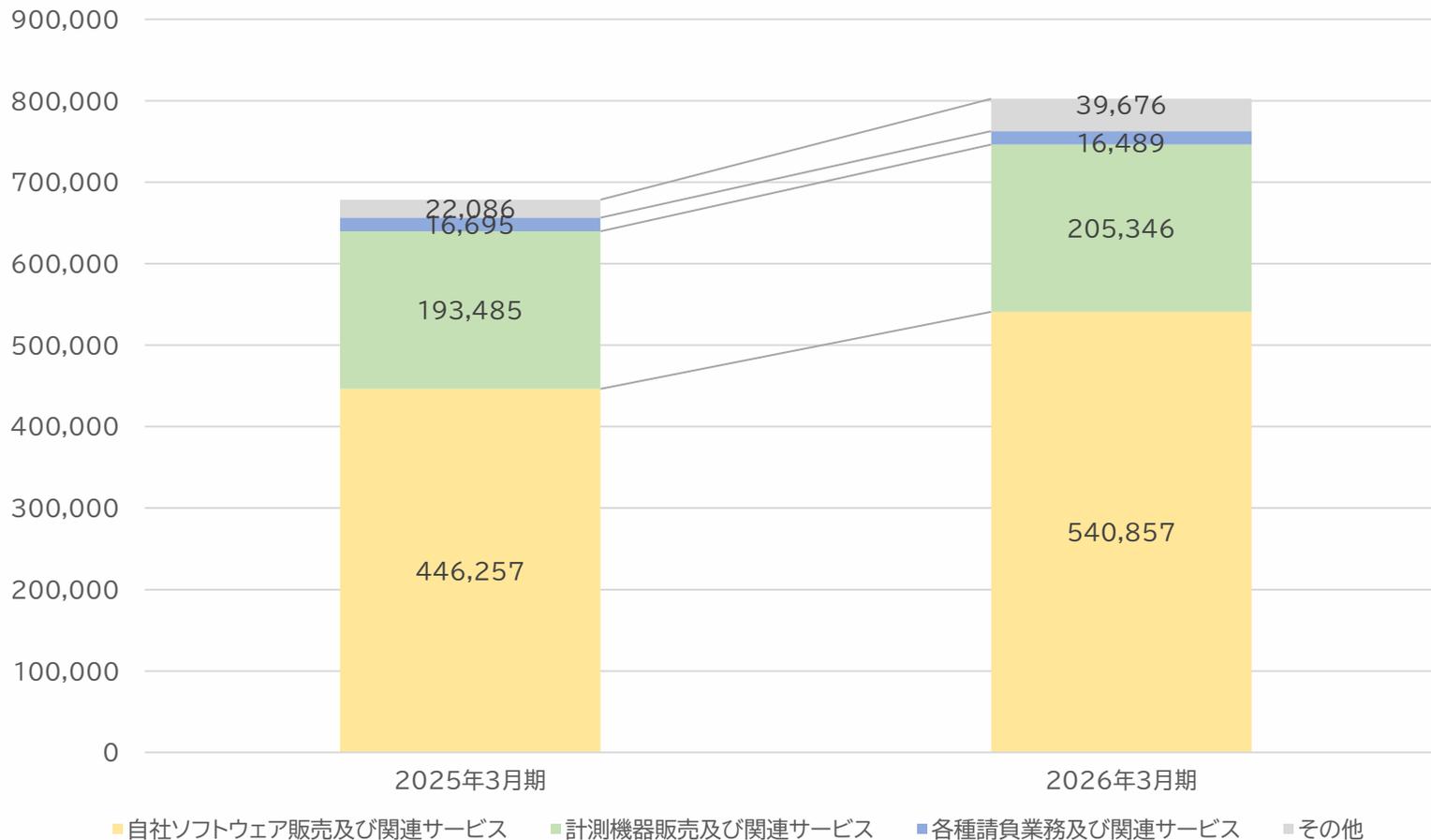
(単位:千円)



セグメント別収益サービス別 売上実績推移

(単位:千円)

セグメント別サービス別売上実績推移 (公共セグメント 第1四半期連結累計期間実績)



自社ソフトウェア販売及び関連サービス

サポートサービスの新規契約・契約更新の増加、および新製品「ANIST」の売上も継続して好調に推移し、前年同期の売上高を上回る結果となる。

計測機器販売及び関連サービス

新品及び中古の測量機器販売に加え、測量機器のリユース・リペア・レンタルの3Rサービスが好調に推移したことにより、前年同期と比較し売上高は僅かに増加。

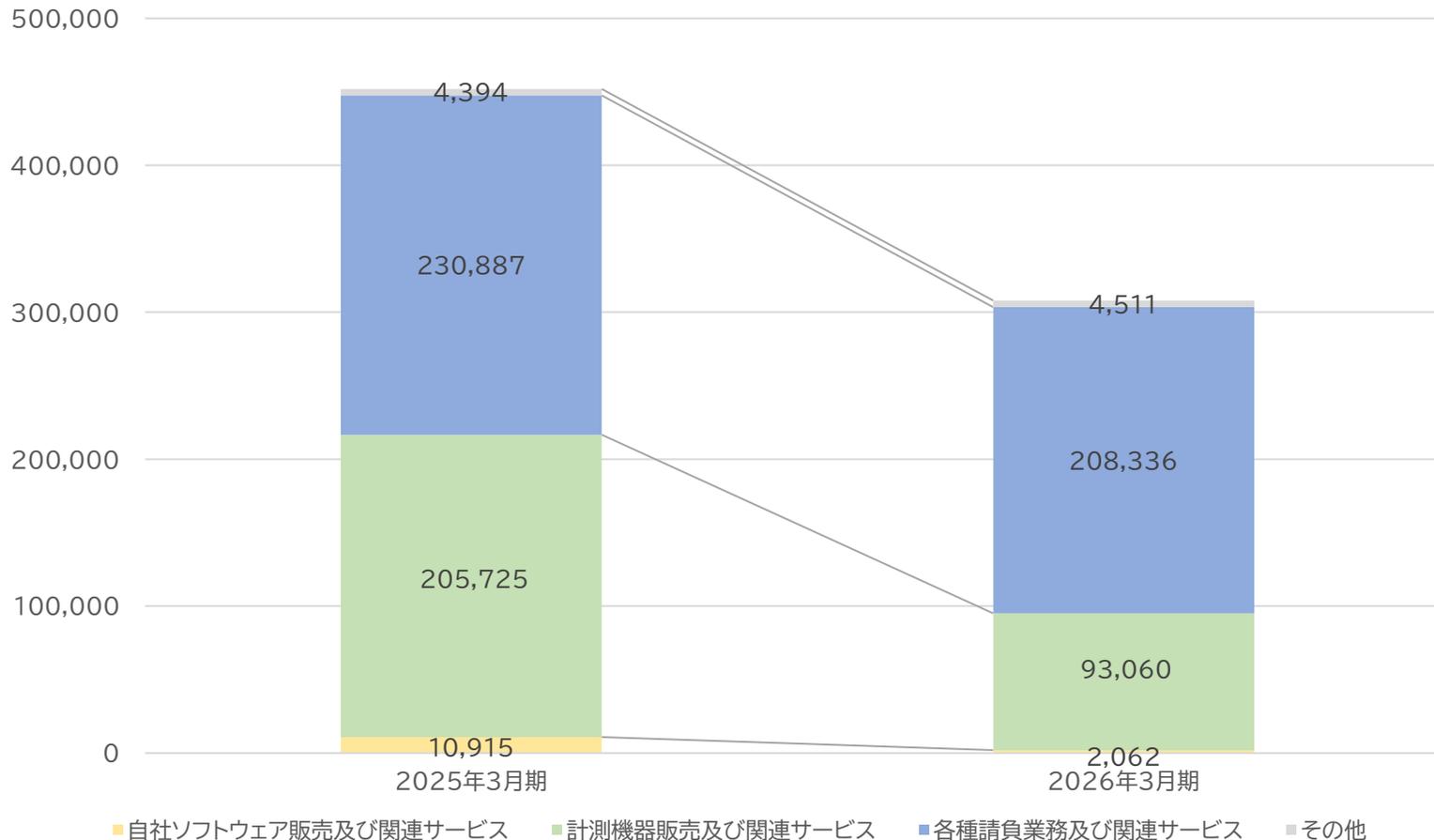
請負業務及び関連サービス

子会社である株式会社三和による測量請負業務が中心。当第1四半期連結累計期間において、納品が完了した案件数が減少したため、前年同期と比較し、売上高は僅かに下回る結果となる。

セグメント別収益サービス別 売上実績推移

(単位:千円)

セグメント別サービス別売上実績推移
(モビリティ・DXセグメント 第1四半期連結累計期間実績)



計測機器販売及び関連サービス

前期に複数台のMMS機器の納品が完了した反動で、前年同期と比較し売上高が減少。

請負業務及び関連サービス

前年同期と比較し売上高は僅かに下回る結果。収益計上は年度末に集中する傾向が強まっている状況。自動運転実用化を目指した自治体や交通事業者との連携が活性化し、受注が順調に進んでいることから、年度末には前年度の売上高を上回る見通し。

請負契約に係る受注残高(第1四半期連結累計期間末時点)

	公共セグメント			モビリティ・DXセグメント			合計		
	前連結 累計期間	当連結 累計期間	前期比(%)	前連結 累計期間	当連結 累計期間	前期比(%)	前連結 累計期間	当連結 累計期間	前期比(%)
計測機器販売及び 関連サービス	—	—	—	17,703	25,405	143.5%	17,703	25,405	143.5%
各種請負業務及び 関連サービス	98,470	56,459	57.3%	373,400	643,775	172.4%	471,870	700,235	148.4%
合計	98,470	56,459	57.3%	391,102	669,181	171.1%	489,572	725,640	148.2%

- 当資料は、第1四半期連結累計期間末時点において各取引先と請負契約を交わした案件のうち、翌四半期以降に売上計上を想定している受注残高を記載。このため、商談が進んでいても、未契約の案件は当資料に算入していない。
- MMSを用いた三次元計測・解析業務の請負、各種測量業務、三次元計測・解析業務の請負、高精度三次元地図データベース構築業務請負、自動運転システム構築、自動運転の実証実験請負業務等の受注残高を記載。

連結貸借対照表

資産の部

負債・純資産の部

流動資産	5,847,570	負債合計	1,934,464
固定資産	2,235,881	純資産合計	6,148,987
資産合計	8,083,452	負債・純資産合計	8,083,452

● 負債のうち、買掛金が前連結会計年度末と比較し、減少している要因について

当社グループでは、年度末に納品が集中する傾向があり、それに伴い買掛金も増加。当四半期連結会計年度において、これらの支払が完了したため、減少したものの。

● 負債のうち、短期借入金が前連結会計年度末と比較し、増加している要因について

賞与支出などの資金需要に対する安定的なキャッシュフローの維持、および、銀行との関係構築を目的として短期借入金が発生。また、子会社における運転資金の借入も含め、本年度中に全額返済予定。

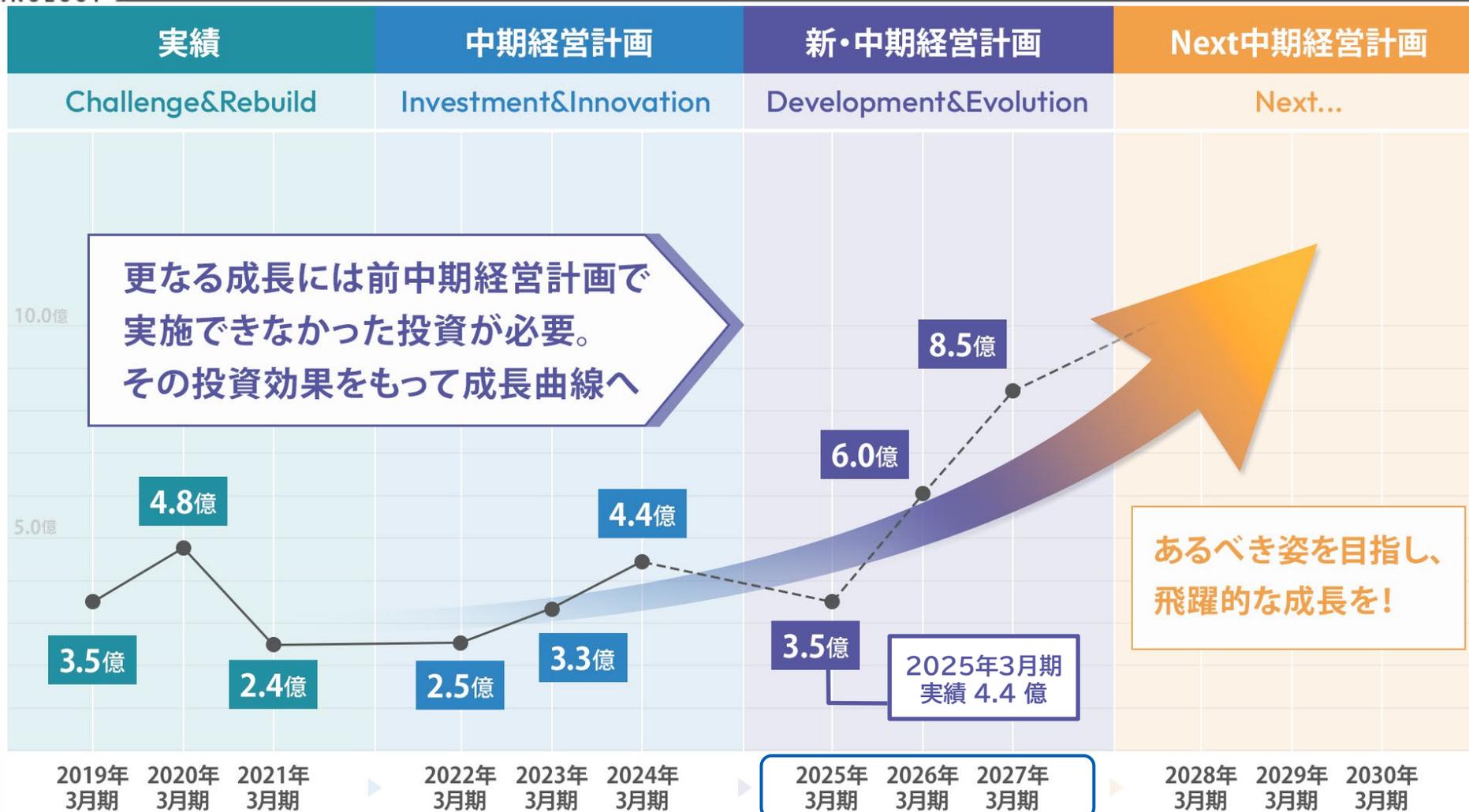
連結損益計算書

売上高	1,112,786
売上原価	588,140
売上総利益	524,646
販売費及び一般管理費	532,405
営業損失	▲7,758
経常損失	▲8,581
親会社株主に帰属する四半期純利益	268

- 前年同期と比較し、売上総利益は増益となった一方、他利益項目が減益となった要因について
粗利率の高い自社ソフトウェア販売が好調に推移し、売上総利益率が改善。
一方で、さまざまなコストアップに伴い、他利益項目が減益となる。
- 税金等調整前純利益が損失の一方で、最終的に四半期純利益が黒字となった要因について
子会社のA-Drive株式会社は三菱商事株式会社との共同出資会社であり、当第1四半期累計期間は損失計上。
その損失の一部は三菱商事株式会社の持ち分であることから当社負担が減少し、最終的に黒字で着地となった。

中期経営計画および当連結会計年度 営業利益進捗計画

2025 AISAN TECHNOLOGY



- 当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等につきましては、2024年5月10日に開示した中期経営計画から重要な変更はありません。
- 詳細は[中期経営計画\(2025年3月期~2027年3月期\)Development&Evolutionの策定について](#)をご参照ください。

- ◆中期経営計画最終年度の2027年3月期における経営計画売上高80億円、営業利益8.5億円の達成の土壌形成
- ◆初年度に計画未達分も含む人財の確保と育成
- ◆次の自社製品リリースと継続的な研究開発
- ◆自動運転の社会実装に向けパートナーの皆様と連携し実証実験を行うとともに実用化時代のサービスモデルの開発
- ◆IRイベントなどへ積極的に参加し、個人投資家の皆様との接点をさらに増やし、企業価値向上に努める

中期経営計画最終年度(2027年3月期)における売上高80億円、営業利益8.5億円など下記KPIの達成を目指し、新卒及びキャリア採用を含む人財確保、資産、研究開発への投資を積極的に実施してまいります。

公共セグメントにおいては、製品企画・開発の強化、製品及びサービスの迅速かつ継続的な提供を行い、グループ会社とも連携して収益に貢献してまいります。

モビリティ・DXセグメントでは、新たなDX事業への参画に向けた取り組みを加速し、各分野での人材育成・研究開発の実施、自治体やパートナー企業との連携強化を通じて将来の収益性の向上を図ってまいります。

中期経営計画の詳細につきましては、当社WEBサイトをご覧ください。 <https://aisan-corp.com/ir/management/vision/>

中期経営計画におけるKPI

売上高

80億円

売上高営業利益率

10%

1株当たり配当金

35円

連結従業員数

235名

営業利益

8.5億円

ROE

8.0%

連結配当性向

35%

男性育児休暇取得

100%

当連結会計年度の業績予想に対する進捗(全社)

(単位:千円)

	2026年3月期 第1四半期 (2025.4.1~2025.6.30)	2026年3月期 通期業績予想	年度業績予想に 対する進捗率 (%)	2025年3月期 第1四半期 (2024.4.1~2024.6.30)	2025年3月期 年度実績	年度実績に 対する進捗率 (%)
売上高	1,112,786	7,200,000	15.5%	1,133,239	6,220,625	18.2%
営業利益	▲7,758	600,000	—	6,376	449,401	1.4%
経常利益	▲8,581	580,000	—	7,570	445,048	1.7%
親会社に帰属する 当期(四半期) 純利益	268	382,000	0.1%	6,648	286,207	2.3%

進捗状況

前年同期と比較し、売上においては同水準の進捗率。前年同様、請負契約を中心に、年度末に各案件の納品が集中し、業績予想を達成する見込み。

当連結会計年度の業績予想に対する進捗(セグメント別)

① 公共セグメント	2026年3月期 第1四半期 (2025.4.1~2025.6.30)	2026年3月期 通期業績予想	年度業績予想に 対する進捗率 (%)	2025年3月期 第1四半期 (2024.4.1~2024.6.30)	2025年3月期 年度実績	年度実績に 対する進捗率 (%)
売上高	802,369	3,218,000	24.9%	678,525	2,557,286	26.5%
営業利益	220,901	428,000	58.4%	165,141	352,928	46.7%
売上高 営業利益率(%)	27.5%	13.3%	—	24.3%	13.8%	—

進捗状況

前年同期と比較し、売上高・営業利益ともに同水準の進捗。製品開発や新規顧客開拓などの取り組みは順調に推移。特に前期にリリースした「ANIST」は好調で、引き続き収益拡大に寄与する見込み。コスト面は人材投資や研究開発を進めた結果増加となるが、これらの取り組みは長期的な成長に資するものとして進展。

② モビリティ・DX セグメント	2026年3月期 第1四半期 (2025.4.1~2025.6.30)	2026年3月期 通期業績予想	年度業績予想に 対する進捗率 (%)	2025年3月期 第1四半期 (2024.4.1~2024.6.30)	2025年3月期 年度実績	年度実績に 対する進捗率 (%)
売上高	307,970	3,972,000	7.8%	451,923	3,652,144	12.3%
営業利益	▲144,609	379,000	—	▲70,096	440,863	▲15.8%
売上高 営業利益率(%)	—	9.5%	—	—	12.0%	—

進捗状況

前年同期に大型売上があったため現時点での進捗率は停滞。一方で、事業計画達成に向け、自動運転の三次元計測や地図整備、新規顧客開拓に注力し、実証実験や自動運転バスの導入も進めている。さらに地域公共交通・インフラDX事業の強化など、事業計画達成に向けた取り組みを加速している状況。

用語	解説
株式会社 スリード	当社の連結子会社。 MMS(Mobile Mapping System)を用いた日本全国の計測業務を中心に行っている。
株式会社 三和	当社の連結子会社。 2021年10月にM&A。地域に根付いた請負測量業務を中心に行っている。
A-Drive 株式会社	当社の連結子会社。2023年2月に三菱商事株式会社と共同設立。 自動運転実証実験のワンストップサービスを目指し、さまざまな自治体・パートナーと連携して活動をしている。
有限会社 秋測	当社の連結子会社。2024年1月にM&A。測量機器の「リユース・リペア・レンタル」の3Rサービスを手掛ける GEOMARKET事業や、さまざまな測量機器メーカーのサービス認定店として全国の測量機のリペア業務を行う。
WingneoINFINITY	当社グループの主力製品。測量・土木設計・登記業界向けCADソリューション。 測量設計・登記・3D点群活用(「WingEarth」と連携)・地籍調査・電子納品・測量用外業端末等の機能をもつ。
WingEarth	測量・土木分野向け大規模点群編集ツール。
LasPort	トータルステーションに接続し遠隔で観測などの操作をするためのコントローラー(外業向けソフトウェア)。
ANIST	2024年7月リリースの新製品。点群データから平面図の作成を1つのアプリで完結する新技術搭載のCADソフト。
MMS	道路面や道路周辺の3次元座標データと連続カラー画像を取得することができる車両搭載型測量システム。 道路を走りながら計測できるため、道路交通規制などが必要なく、効率的かつ高精度の点群データを取得できる。



2025 AISAN TECHNOLOGY

- | 2026年3月期 第1四半期
決算概況

- | 2026年3月期 第1四半期
トピックス

- | ご案内



◆国際 建設・測量展 CSPI-EXPO に出展しました



6月18日(水)～21日(土)に幕張メッセにて開催された「[第7回 国際建設・測量展 CSPI-EXPO2025](#)」に出展しました。業界最大級の展示会で、今年は405社が出展し、4日間で57,000人を超える来場者が訪れました。

当社は、新製品の認知向上と業界内での存在感強化、さらに新規リードの獲得を目的に出展いたしました。当社ソフトウェアの最新アップデート情報などを盛り込んだお客様の困りごとを解決するソリューション提案について30分毎にブースセミナーを開催したほか、特別セミナーとして業界のDX実現におけるデジタルツイン等の3D都市モデル利活用についてご紹介しました。

4日間の出展で新規・既存を含め多くの来場者と接点を得ることができ、売上に繋がる見込み案件についても目標を上回る件数を獲得しております。獲得した商談案件に対して迅速かつ丁寧にフォローを行い、確実な受注につなげてまいります。また、出展を通していただいたご意見も今後の事業活動に活かしてまいります。

◆保守サポート加入ユーザー向けに「ATM'S Home ユーザー会」を開催

ATM'S 会員は増加傾向にあり
会員数は4000超です(6月30日現在)



ATM'S Home
AisanTechnologyMember'sSupport

5月16日(金曜日)に、当社製品サポートサービス「ATM'S」にご加入のお客様を対象にしたユーザー会を開催しました。

「ATM'S」保守サービスでは、製品の最新バージョンの提供やお問い合わせ対応などを通じてお客様の業務をサポートしています。当日は、オンライン参加を含め全国から多くの方にご参加いただきました。

お客様による当社製品「WingEarth」活用事例のご紹介や、当社からはリリース予定の最新機能、便利な「ATM'S Home(専用サイト)」の機能をご案内し、参加者の皆様から大変ご好評をいただきました。

現地会場の懇親会では、営業や開発の社員も参加して、機能に関するご要望について直接お伺いするなど、貴重な機会となりました。

今回が初開催となりましたが、特に製品活用事例の紹介について「他製品の事例なども知りたい」というご要望を多く頂戴したため、今後も継続開催を予定しております。

社員がお客様の声に触れる機会は、当社グループにおける事業活動の循環サイクルとして掲げる「**創る・作る・売る**」の実現にあたり重要な場となります。

いただいたご意見を今後の商品開発に反映し、お客様に寄り添った価値のある製品・サービスの創出へ引き続きつなげてまいります。



当日の現地会場の様子



◆「トータルステーション認定検査サポートパック」販売開始

当社および子会社の有限会社秋測は、測量機器販売時からお客様への長期的なサポートを提供するため、トータルステーションと定期メンテナンスをパッケージにした新たな商品「トータルステーション認定検査サポートパック」の提供を開始いたしました。

有限会社秋測が運営する「GEOMARKET(ジオマーケット)」では、リユース買取・販売、レンタル、点検・修理サービスを展開しております。特に、測量機器メンテナンス事業においては、日本測量機器工業会(JSIMA)認定事業者ならびにライカジオシステムズ社のオーソライズド・サービスセンター(※)として正式認定を受けております。

当社が販売するライカジオシステムズ製トータルステーションを購入されたお客様を対象に、5年間の認定検査支援を行う「トータルステーション認定検査サポートパック」を付帯サービスとして提供開始いたしました。

測量機器は、導入後も継続的な検査・校正によってその精度を保つことが求められています。当社および有限会社秋測のシナジーを発揮し、精密な点検・修理サービスを通じて、お客様の機器性能を長期にわたり保持いたします。

※ライカジオシステムズ社では、ライカ社の定めた設備、手順を遵守し定期的な監査を受け承認されたパートナーをオーソライズド・サービスセンターと称し、サービストレーニングが定期的実施され、必要なサービスツール、サービスパーツが提供されています。この認定を受けた会社は国内8社のみです。ライカ社の定めた設備・手順を遵守した点検調整・修理を実施しております。

安心・高精度測量を実施いただくために

AISAN TECHNOLOGY GROUP

JSIMA認定、ライカジオシステムズ社認定
測量機器 定期点検調整のご提案

測量機器総合サービスGEOMARKET(ジオマーケット)は、アイサンテクノロジーグループとして、リユース買取・販売、レンタル、点検・修理サービスを展開しております。特に、測量機器メンテナンス事業においては、日本測量機器工業会(JSIMA)認定事業者、並びに国内8社のみであるライカジオシステムズ社のオーソライズド・サービスセンターとして正式認定を受けており、品質担保はもちろん、迅速な対応をいたしております。測量機器のトータルサービスに関してお問い合わせがありましたら、お気軽にご相談ください。

ライカ社製品の点検調整・修理は
ライカジオシステムズ社 オーソライズド・パートナー認定店にお任せください

ライカジオシステムズ社では、ライカ社の定めた設備、手順を遵守し定期的な監査を受け承認されたパートナーをオーソライズド・サービスセンターと称し、サービストレーニングが定期的実施され、必要なサービスツール、サービスパーツが提供されています。この認定を受けた会社は国内8社のみです。ライカ社の定めた設備・手順を遵守した点検調整・修理を実施しております。

測量機一般点検調整とライカ認定検査の相違点について

項目	ライカ社認定	点検調整	一般点検調整
水準	○	○	○
垂直軸垂直	○	○	○
垂直軸水平	○	○	○
ゼロ点	○	○	○
測距	出力 ○ 距離 ○ 距離値の修正 ○	出力 × 距離 × 距離値の修正 ×	出力 × 距離 × 距離値の修正 ×
測角	出力 ○ 距離 ○ 自動距離測定の修正 ○	出力 × 距離 × 自動距離測定の修正 ×	出力 × 距離 × 自動距離測定の修正 ×
垂直軸傾斜	○	○	×
水平軸傾斜	○	○	×
垂直軸傾斜	○	○	×
水平軸傾斜	○	○	×
距離値の修正	○	○	×
距離値の修正	○	○	×

○: 確認可能な項目 △: 確認できるが修正できない項目 ×: 確認も修正も出来ない項目

【一般点検調整 実施内容】
一般点検調整項目の検査を実施します。角度、距離精度がJSIMAの規格内に収まっているかの検査となります。発行される証明書は、JSIMA校正証明書、検査記録書となります。

【ライカ認定検査 実施内容】
メーカー認定サービストレーニング課程修了、全社員の定期的な点検を、ライカ認定サービスソフトを使用し、実施します。これにより、ライカの基準、仕様を満たしていることを証明する「Calibration Certificate Blue」が発行されます。

【ライカ認定検査パック】
特典
校正証明発行(JSIMA規格・Leica版)
修理工費10% OFF
買取30% UP
送料無料

◆準則の一部改正と標高改定に係る対応

2025年3月31日に「作業規程の準則」の一部改正が公表されました。また、4月1日から新しい標高体系が採用され、全国の基準点・水準点の標高が改定されました。2024年6月1日を標高の元期とする「[測地成果2024](#)」([日本測地系2024](#))へ変わります。

新しい標高体系では、新フォーマット形式のジオイド・モデルファイルへ変更されます。これに伴い、新しい測地系、ジオイド・モデルに対応した[INFINITY 2026の改訂プログラム](#)を5月にリリースいたしました。

◆Windows10サポート終了に伴う施策

2025年10月14日にWindows10のサポートが終了することに伴い、Windows10以前をご利用のお客様に対し、パソコンの入れ替えをセットにしたアップデート施策などを2024年12月より展開いたしました。

今年10月にかけて同様の需要が見込まれることから、製品アップデートおよびサポートサービスへの加入を促進するなど、今後も商談の掘り起こしを行ってまいります。





西新宿・塩尻とも
ティアフォー製「Minibus」を使用

◆【東京都 西新宿地区】自動運転レベル2による路線バスの通年運行を開始

東京都の西新宿地区では、自動運転レベル2による路線バスの実証実験を実施してきましたが、2025年2月22日からは**通年運行を開始**しました。

アイサンテクノロジー株式会社及びA-Drive株式会社、東京都、京王電鉄グループの協働による定常運行は、土日祝日の午前11時～午後2時台の間、25分間隔で新宿駅西口と東京都庁を結ぶルートで自動運転レベル2にて走行しています。(8月以降、運休する期間もあります)

専用アプリでの事前予約・事前決済が必要で、大人190円、小学生以下100円でご乗車いただけます。

定常運行にあたり、当社グループはリアルタイムのシステム監視、技術サポート、データ分析などの役割を担っています。将来的な**自動運転レベル4実装に向けたデータやノウハウを蓄積**しています。



◆【長野県塩尻市】自動運転レベル2の定常運行を開始

2025年1月に**自動運転レベル4での実証実験を実施した長野県塩尻市**では、5月9日より、隔週の金曜土曜に塩尻駅、塩尻市役所、商業施設等を結ぶルートで自動運転レベル2で走行する定常運行を実施し、200名を超える方に乗車いただきました。

アイサンテクノロジー株式会社及びA-Drive株式会社、長野県塩尻市、一般財団法人塩尻市振興公社、アルピコ交通株式会社、アルピコタクシー株式会社が参画し、地域交通事業者等の地域人材による自動運転サービス提供体制の構築、持続可能なサービス構築に向けた収益性の検証、将来的な自動運転レベル4運行実施を想定した課題抽出を行っています。

自動運転の実用化は、政府目標として2025年に50か所以上、2027年に100か所以上での社会実装を目指すと言われています。ドライバー不足や地域の公共交通課題を解決する自動運転の本格的な社会実装に向けて、当社では、今後もパートナー企業と協力し、各地の自動運転実証事業へ参画し、社会実装への取り組みを推進してまいります。

◆「軽井沢町環境WEEK」において自動運転EVバスの体験乗車に参画しました

アイサンテクノロジー株式会社及びA-Drive株式会社は、軽井沢駅と観光地として人気の旧軽井沢エリアを結ぶルートで行われた自動運転レベル2の体験乗車会に参画いたしました。

6月28日(土)～7月4日(金)の期間、軽井沢町、東日本旅客鉄道株式会社と株式会社西武ホールディングスが共催したエコイベント「軽井沢町環境WEEK」の一環として行われたものです。

軽井沢町の公道で自動運転車両の走行を行うのは初めての試みでした。
軽井沢駅北口～旧軽井沢ロータリー～軽井沢駅北口の約3kmを
自動運転レベル2による自動運転EVバスMinibusが走行しました。

6月29日(日)～7月4日(金)の期間、1日8便が運行し、
地元町民や軽井沢町を訪れた観光客が乗車しました。
観光客や地域住民も利用しやすい公共交通サービスの充実を目指した
地域の新しい交通モデルを検証する機会となりました。



軽井沢町を走行するMinibusの様子

◆岡崎市内において実施される自動運転バスの実証実験に参画いたします



使用車両(イメージ)

アイサンテクノロジー株式会社及びA-Drive株式会社は、名鉄バス株式会社、名鉄グループバスホールディングス株式会社とともに、地域交通の課題解決と将来的な自動運転の実装に向け、2025年11月から12月にかけて、[岡崎市内において実施される自動運転バスの実証実験に参画](#)いたします。

本実証は、岡崎市が応募し採択された地域公共交通確保維持改善事業補助金(自動運転社会実装推進事業)を活用して実施します。いすゞ自動車製大型バス「エルガ」を使用し、岡崎市の中心部である名鉄東岡崎駅からJR岡崎駅間(片道約3.5km)を走行する定時定路線を、約35日の長期間にわたり運行し、関係者・一般向けの試乗会も予定しています。

地域における自動運転バスの本格運用に向け、以下の観点から多角的な検証を実施します。

【車両概要】

いすゞ自動車製大型バス「エルガ」

- ・自動運転レベル2(運転席有人)
- ・走行中はドライバー、オペレーターが同乗し、安全確保を徹底します。
- ・乗車定員:24名(自動運転時)
- ・最高速度:時速40km(自動運転時)

- ・自動運転レベル2の運用における走行の安定性の確認
- ・将来的なレベル4実装を見据えた、運行オペレーションおよびビジネスモデルの検討
- ・地域における自動運転に対する社会受容性の把握

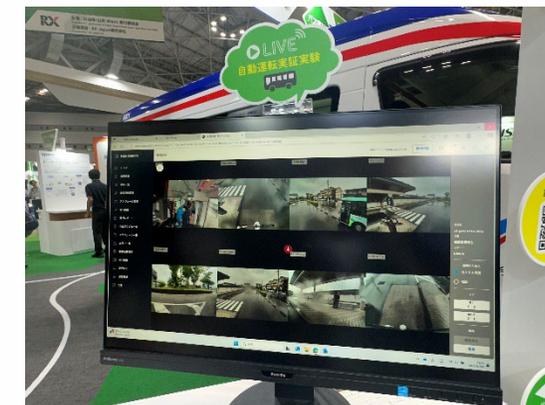
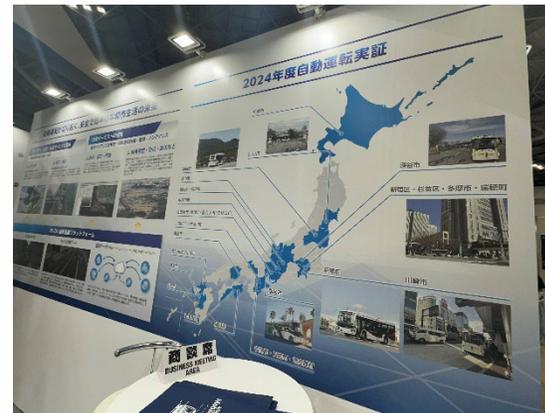
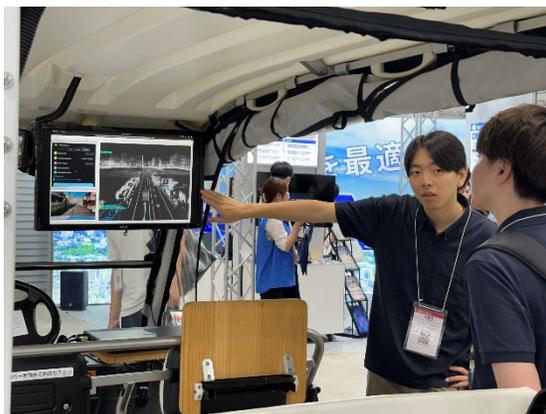
本実証は、持続可能な公共交通の在り方を検討するための重要なステップであり、得られた成果は将来的なレベル4自動運転の本格導入に向けた貴重な知見となります。地域の皆さまにとって身近な公共交通の未来像を描くべく、官民が連携して取り組みを進めてまいります。

◆自動運転車両のメンテナンス体制構築に向けて 名鉄自動車整備株式会社と協定締結



- アイサンテクノロジー株式会社及びA-Drive株式会社は、名鉄自動車整備株式会社と、自動運転車両の運行に伴う整備・定期メンテナンス体制の構築に向けて、2025年5月に協定書を締結しました。
- 自動運転の実装が推進され、技術やシステムが進化していく中、自動運転車両の運行に伴う整備・定期メンテナンスに関する統一された基準や体制の確立が課題となっていました。そこで、中部圏内で自動車整備事業を展開する名鉄自動車整備、自動運転システムを販売するアイサンテクノロジー、自動運転ワンストップサービスを提供するA-Driveの3社が協定を結び連携することで、自動運転レベル4向け自動運転車両のメンテナンスサービスの実装に取り組むとともに、全国展開を見据えたスキーム構築を目指します。
- 自動運転本協定では、自動運転レベル4に対応する特定整備工場の整備体制の確立をはじめ、車両センサーおよび制御システムなどの高度整備作業に関する定期メンテナンスサービス構築、専門人材の育成、そして予防整備に向けたデータ連携など、各社の知見とリソースを生かした包括的なサービス体制の構築を推進してまいります。

◆「自治体・公共Week2025」に出展しました



7月2日(水)～4日(金)に東京ビッグサイトにて開催された「自治体・公共Week2025」に出展いたしました。自治体・公共向けの6つの専門展で構成された展示会で、当社はスマートシティ推進 EXPO内にブースを構えました。

自社ブースにて自動運転ソリューションやDX分野の展示等を行い、当社が販売店契約を締結しているヤマハ製グリーンスローモビリティ(低速小型EV)が特に注目を浴び、多くの方に試乗いただきました。また、これまで全国160回以上の実績を重ねてきた自動運転実証実験についてのパネル展示や、DX分野では3D都市モデルと災害リスクデータを掛け合わせた新たなアプリの参考出展も注目をいただきました。

A-Drive株式会社は三菱商事株式会社のブース内にて展示を行い、会期中に行われた長野県 軽井沢町の自動運転実証実験の様子をリアルタイムで閲覧できるモニターも設けました。

当社およびA-Drive株式会社は、7月16日(水)～18日(金)にAichi Sky Expo(愛知県国際展示場)で開催された「人とくるまのテクノロジー展 2025 NAGOYA」にも、株式会社ティアフォーと共にJSAE企画展示のブース内にて出展を行いました。

当社は、国立大学法人岡山大学大学院 環境生命科学研究科の西山 哲教授と、令和7年5月より令和8年3月31日までの期間において、「[3次元データを活用したインフラ維持管理技術の研究開発](#)」に関する共同研究を開始いたしました。

西山教授は、3次元レーザ点群データを用いたインフラ構造物の維持管理手法の研究において豊富な実績を有しており、今回の共同研究では、MMS(モービルマッピングシステム※)の新たな利活用推進や点群をはじめとした3次元情報を活用した社会インフラの持続的な維持管理に資する新たな技術の開発を目指します。

本取り組みは、国土交通省国土技術政策総合研究所「DXデータセンターにおける3次元データ利用環境の官民連携整備に関する共同研究」のノウハウを活用するなど、受発注者間でシームレスな利活用なども視野に入れた研究開発を進めてまいります。当社は今後も3次元地理空間データの社会実装に取り組み、インフラ分野におけるDX推進とイノベーション創出を支援してまいります。

「DXデータセンターにおける3次元データ利用環境の官民連携整備に関する共同研究」 詳細は[こちら](#)



※MMSとは、三菱電機が開発した移動式高精度3次元計測システム「モービルマッピングシステム」です。
3Dレーザースキャナやカメラなどを搭載し、道路面や道路周辺地物等の3次元情報と連続カメラ画像を取得します。

◆8月1日に開所式を行いました



開所式の様子



長崎DXラボ

当社は、今後のDX推進の新たな拠点として長崎市に「[長崎DXラボ](#)」を開設し、8月1日に開所式を行いました。

長崎市への立地は、IT人材が確保しやすく災害リスクが少ないといった地域特性や、産学官連携によるイノベーション創出への期待などから決定いたしました。本年4月には[長崎県、長崎市と立地協定の調印](#)を行いました。

開所式には、長崎県や長崎市、地元大学などから関係者にご出席いただき、今後の長崎での取り組みについてご説明しました。

「長崎DXラボ」では今後5年間で13名の雇用創出を予定しております。社内システム運用の第2拠点として立ち上げ、その状況に応じて、自社開発する測量・不動産登記向けのソフトウェア開発や自動運転関連のシステム開発の拠点とすることについても検討してまいります。

◆6月30日に株主様向け自動運転バス試乗会を行いました



当社は、6月30日、株主様のインセンティブとして株主様を限定とした**自動運転バスの試乗会**を実施いたしました。当社が目指す自動運転の社会実装に向けた取り組みを株主の皆様にご体験いただくことを目的とし、株主様限定の企画として開催いたしました。当日は多くの株主様にご参加いただき、自動運転レベル2で走行する自動運転バスMinibusにご乗車いただきました。名古屋市内屈指の繁華街である錦エリアにて、交通量の多いハードな環境下での走行をご体験いただくとともに、当社スタッフによる技術説明を通じて、最新の開発状況をご理解いただく貴重な機会となりました。参加者の皆様からは、「**実際に乗車してみて、自動運転技術の進化を体感できた**」「**今後の技術発展に期待したい**」といったご意見・ご感想を頂戴いたしました。

試乗会後にはアンケート調査を実施し、皆様から寄せられたご意見は、今後の技術開発や事業展開に加え、IR活動にも反映させ、企業価値のさらなる向上に努めてまいります。



2025 AISAN TECHNOLOGY

Ⅰ 2026年3月期 第1四半期
決算概況

Ⅰ 2026年3月期 第1四半期
トピックス

Ⅰ ご案内



◆名証IRセミナーにて企業説明会を開催しました



東京会場の様子

当社は5月、6月に名古屋証券取引所主催のIRセミナーに参加いたしました。5月22日(木)の『名証IRセミナーin東京』、6月4日(水)の『名証IRセミナーin名古屋』にて、企業説明会を開催しました。

昨年10月に名古屋証券取引所に上場し、初めてのセミナー参加となりましたが、両日ともに多くの個人投資家の皆様にご来場いただきました。

当日は当社代表取締役社長の加藤より、中期経営計画の進捗状況や当社の取り組みなどについてご説明させていただきました。また、事業モデルやグループ会社との連携、自動運転の将来の展望についてなど、質問も多数お寄せいただきました。

当日のアーカイブ動画は [こちらから](#) ご視聴いただけます。

◆名証IRエキスポに出展いたします



当社は 9月5日(金)及び 6日(土)に名古屋市の吹上ホールにて開催される「名証IRエキスポ2025」へ出展いたします。当イベントは名古屋証券取引所が主催する、日本で最も歴史ある展示会形式のIR イベントです。当社の出展は今回が初めてとなります。当日は、会場にて当社ブースを構え、両日ともブースセミナーを開催いたします。

ご参加には事前申し込みが必要となります。詳細につきましては、名古屋証券取引所のホームページをご覧ください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

詳細はこちら(名証IRエキスポのホームページです)
https://www.nse.or.jp/ir_expo/investor/

◆「QUICK & NOMURA コーポレート・リサーチ」による弊社レポート公表について

株式会社QUICK・野村インバスター・リレーションズ株式会社・野村証券株式会社が共同で行うスポンサード・リサーチ事業 (QUICK & NOMURA コーポレート・リサーチ) による弊社レポート(本決算版)が2025年7月25日に公表されました。

本レポートは、弊社の事業内容とその強み・弱みの分析、事業計画、業績動向などをその内容とします。本レポートは弊社が支払うスポンサー料によって作成されていますが、正確性・客観性を重視して執筆されており、当社の事業内容をより多くの皆様に深くご理解を頂くことに有益と考えております。

今後も四半期決算ごとに定期的にレポートをアップデートしてまいります。

イニシャルレポートは以下にてご確認いただけます。

https://www.nomura-ir.co.jp/ja/qnresearch/report_4667.html



アイサンテクノロジー
4667 東証スタンダード / 情報・通信業

2025年5月1日
QUICK 企業価値研究所 前田俊明、岡田三保

祖業の測量支援ソフトウェア技術を自動運転に展開

会社概要

「測量」に係るシステム技術の発展とともに成長
同社グループは、1970年の創業以来、「測量」に係るシステム(測量CADなど)の技術発展とともに成長し、測量・不動産登記に関わる顧客の業務効率向上を支援する専用ソフトウェアの開発・販売事業を展開してきた。2007年のモバイルマップシステム(MMS)を用いた事業から始まった自動運転を含むモビリティ関連事業は、測量ソフトウェア関連の事業と並ぶ中核事業に育ちつつある。上場済みの車証スタンダードに加え、24年、免許の地である名古屋で名証メイン市場に上場した。

業績の動向

コロナ禍で21/3期は落ち込んだが、その後は回復傾向
2000年代は同社の業績が落ち込んだ。08年秋のリーマンショックによる企業の設備投資抑制などもあり、11/3期は営業赤字に転落した。12/3期以降は回復に転じる。コロナ禍で21/3期は業績が落ち込んだが、22/3期以降は回復傾向にある。

株価・関連指標の動向

PBRは18年の4倍台からは低下。足元1倍超は維持
業績拡大への期待などからPBRは18年に4倍台まで上昇したが、その後は下落傾向を示した。24年央には1.0倍まで低下したものの、足元は1.3倍前後となっている。

業績データ 会計基準：日本基準 (％は前年比増減率)

決算期	売上高(百万円)	営業利益(百万円)	経常利益(百万円)	純利益(百万円)	EPS(円)				
連 23/3 期(実績)	4,463	6.5%	331	28.6%	330	30.6%	240	18.4%	44.26
連 24/3 期(実績)	5,478	22.7%	449	35.7%	455	37.7%	340	41.4%	62.52
連 25/3 期(予想)	6,000	9.5%	350	-22.2%	335	-26.5%	221	-35.1%	41.95

注：予想は会社予想、実績、予想EPSは会社予想純利益ベースに当研究所で算出している

※本資料のご利用に際して重要な事項を最終の2ページに記載しておりますので、必ずご確認ください。

当社グループにおいては、株主・投資家の皆様と建設的な対話を行うことを通じて、当社の経営方針や成長戦略等を理解し支持していただけるよう努めており、また皆様の声を適切に反映させていくことが、当社が中長期的な企業価値を向上させることにつながると考えております。

このため、以下の取り組みを行っておりますので、ぜひご確認ください。

IR情報配信メールマガジン

▼新規登録はこちらをクリック、またはQRコードよりお願いします

IR情報メール配信サービス
決算情報など、IR関連の最新情報をメールでお届けします。

[➤ 新規登録はこちら](#)



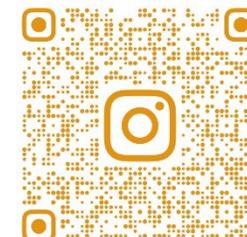
X・Instagramアカウント

X(旧Twitter)



@AISAN_CORP

Instagram



@AISANTEC_IR

■ 株価に対する考え

- 株価は、市場における投資家の評価であり、その妥当性について当社が申し上げる立場にはございませんが、企業価値の向上に向けては、引き続き全力で取り組んでまいります。
- 当社株式は株主数が少ないこともあり、株価が変動しやすい環境にあることも考えられますが、積極的な IR 活動などを通じて、個人株主を増やす施策を進めております。

■ 出来高に対する考え

- 当社株式の出来高が低い現状は、重要な経営課題であると認識しております。
- 当社グループの売上高および当社株式の時価総額を踏まえ、当面は個人投資家の皆様へのアプローチが重要と考えております。
- その一環として、個人投資家比率の高い名古屋証券取引所への重複上場ならびに自己株式の取得を実施しました。
- 会社規模の拡大とともに、会社説明会の開催やIRイベントへの参加など情報発信等、PR強化を通じて出来高の増加を図ってまいります。

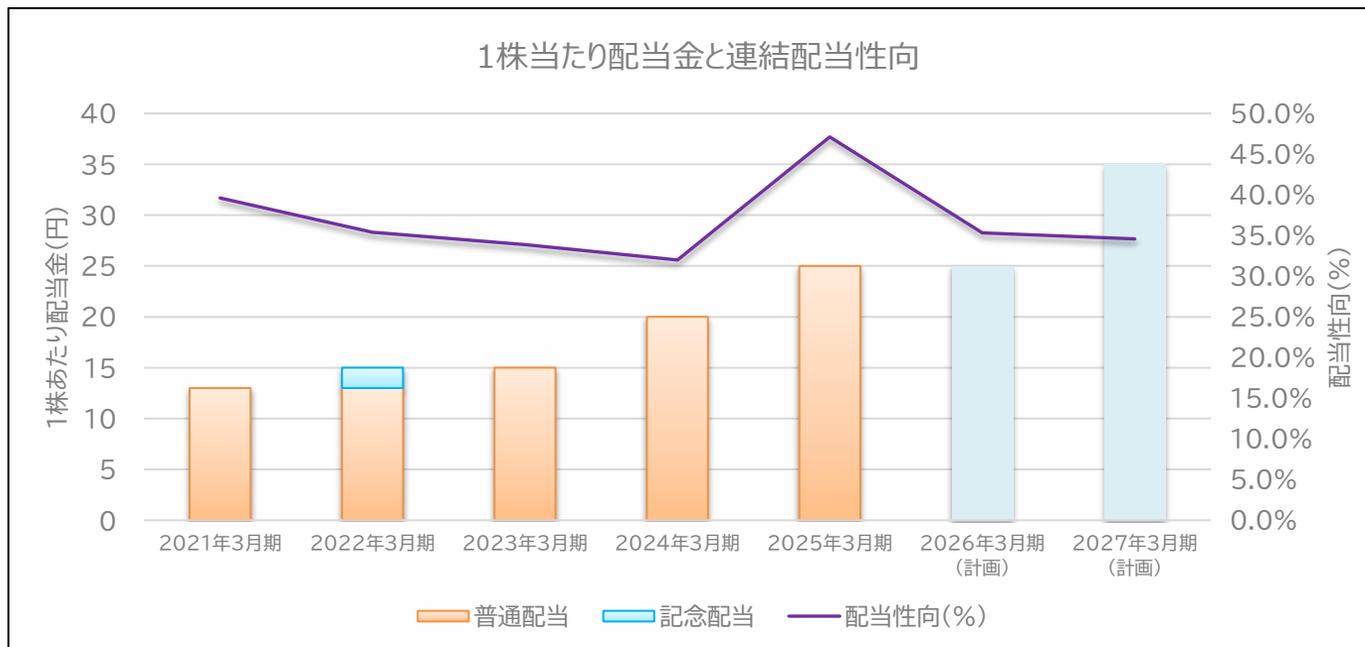
■ まとめ

- 当社取締役会では、日々の出来高を含む株価動向を注視し、重要な経営課題の一つとして議論しております。
- 一方で、中期経営計画でお示しのとおり、公共/モビリティ・DXの両セグメントでは、人財を含む積極的な投資が企業規模と収益の拡大につながると考えており、これらの投資の収益寄与までには、一定の時間を要すると判断しております。
- IR活動を強化する一方、現時点では事業投資を優先的に実施し、その成果として得られる収益を、配当という形で株主の皆様へ還元する方針です。
- 以上より、2030年の目指す姿の実現に向け、中期経営計画の達成を通じて、企業価値の向上に努めてまいりますので、株主・投資家の皆様には、長期的な視点でのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

配当を含めた株主還元については、配当を主たる策とし、当社グループの経営成績に基づいた成果配分を安定的に実施することを基本方針とし、配当政策は、以下のとおりとしております。

1. 毎期の経営成績、投資計画、内部留保の状況などを勘案します。
2. 連結配当性向35%を目標とします。
3. 安定的・継続的な配当を行うよう努めます。

以上より、2026年3月期における期末配当は、昨年同様に1株当たり25円とする計画です。
なお、株価等企業価値向上に向けた当社の考え方につきましては、[P.44](#)へ記載しておりますので、あわせてご確認ください。



※2025年3月期の配当金は、2025年6月24日に開催予定の株主総会に付議することを決議しております。

企業価値向上の一環として、資本コストや株価を意識した経営が唱えられており、当社グループでも、中長期的な経営の取り組みとして重要な位置づけと考えております。

前事業年度において当社グループのPBRは1.24倍と、目安の1倍は超えておりましたが、さらなる企業価値向上に向けて、「資本コストや株価を意識した経営」に、現状分析と対応を通じて取り組んでまいります。

取り組みの詳細につきましては、当社HPに記載の[当該ページ](#)をご覧ください。

◆ 資本コスト・株価を意識した経営として中期経営計画で取り組むこと

売上高と営業利益率伸長による収益力の向上

ROE、ROA、ROICの改善によるPBRの向上

広報・IRの強化と株主還元強化によるPERの向上

企業におけるサステナビリティの実現は、2015年に国連サミットで採択されたSDGsの取り組みの浸透とともにグローバルに注目を集めています。その実現に向けては、CSRを踏まえたESGによる企業活動が欠かせません。

以上を受け、サステナビリティの実現に向け、当社グループの社是の下で、その取り組みに努める所存です。詳細については、当社HPに記載の「[サステナビリティポリシー](#)」をご確認ください。

知恵
実行
貢献

社是

それは無限の資産
知恵は実行して実を結ぶ
実を結んで社会に貢献

経済開発

- 社会インフラの基礎技術となる測量業務を最大に効率化するソリューションの創造と提案に努めます。
- 来たる自動運転社会に向けた「安心・安全」を担う高精度三次元地図データの生成技術の研磨を進めます。
- 高精度位置情報から地理空間情報までを包括したイノベーションを創造していきます。

社会開発

- 少子高齢化時代に沿った職場環境、人事制度を構築します。
- 最新の測量技術に係る基礎研究を進めます。
- DXやICTに係るソリューションによって、業界の生産性向上を助成します。

環境保護

- カーボンゼロ社会に適応する働き方を追求します。
- 業務に係るDX推進から、ペーパーレス環境を目指します。
- 環境保護への意識浸透を進めます。

現在、労働市場においては、少子高齢化により採用市場は激化するとともに、労働人口は今後も減少する方向にあります。

そのような中、当社グループでは、採用活動を積極的に行うとともに、限られた社員にて最大の成果を上げるべく生産性の向上に取り組んでおります。企業として持続可能な競争上の優位性を保つためには、その一環として、DX活用は重要な役割を果たします。

当事業年度においては、当社HPに公表しております「[DX戦略2024](#)」に従い、下記に掲げる3つのテーマの実現を目指し、グループ全体で取り組んでおります。

1. DXを利活用したビジネスをお客様に提供する

2. AI・クラウド基盤を活用し、生産性の向上を図る

3. デジタル人財の育成を行う

本資料に記載された情報や業績予想等の将来見通しは、資料作成現時点において入手可能な情報及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されております。今後、経営環境の変化等の事由により実際の業績や結果とは異なる可能性があります。

【本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先】

アイサンテクノロジー株式会社 経営管理本部

お問い合わせURL：<https://www.aisantec.co.jp/contact/>

※以下QRコードからもお問い合わせフォームにアクセスできます



